



つるた農事だより

実りの秋を迎え

～収穫と子どもたち農業体験より～

・津軽ぶどう協会成田会長からブドウの収穫の仕方を教わる園児

観光ぶどう園本格オープン

スチューベンブドウの作付面積生産量ともに日本一を誇る当町で、10月1日(土)～16日(日)までの休日期间中、町の観光ぶどう園がオープンしました。

観光ぶどう園は、主に国道339号沿いでブドウ園地を営む津軽ぶどう協会会員9人の4つの園地で開園され、町観光協会がスチューベンブドウの宣伝強化とたくさん観光客が町に訪れることを期待し、東北新幹線全線開業効果活用促進事業をの助成金を活用して、今年初めて本格的な観光ぶどう園としてオープンしました。

オープンの先立ち、9月30日(金)、中央保育所の園児14人が、津軽ぶどう協会会長成田義弘さんの園地(境地区)でブドウ狩りを体験して、一足早い秋の味覚を楽しみました。園児たちはブドウの甘い香りの立ち込める園内で、ハサミを上手に使い、ブドウの房を丁寧に収穫していました。

収穫後、ブドウをごちそうになった園児たちから「おいしいブドウありがとございました!」との言葉に、開園したと津軽ぶどう協会の会員たちは胸を撫で下し、安堵の表情を見せていました。

成田会長は「これを機に毎年続け、ブドウ園地が町の観光地の一つとして成長できれば」と期待を込めて述べていました。

・手刈りした稲わらを束ねる (10/3 梅沢小学校)



・稲わらを運ぶ児童 (田んぼの学校)



・ブドウを収穫する中央保育所の園児たち



・手刈り後、パインダーの運転も体験（9／14 菖蒲川小）



・担当職員から稲の刈り方を教わる（10／1 田んぼの学校）



・献穀米の刈り取り作業をする齋藤さんと奉仕者の皆さん（9／15 新田子地区献穀田にて）

「コメの作柄は『平年並み』」

今年の本県津軽地方のコメの作柄は「平年並み」と発表され、町内の水田では9月14日ごろから今月上旬にかけて収穫作業が行われました。

町の児童たちが栽培を手掛けた学校田や田んぼの学校でも「手刈り」による稲刈り作業が例年通り行われ、今年も無事に収穫できた喜びを児童はじめ関係者全員で分かち合っていました。

新嘗祭献穀米の収穫終わる

11月23日（水）に皇居で行われる新嘗祭に献穀するコメの収穫作業が、9月15日（木）、本年県の献穀田となった齋藤博文さん（鶴翔クリーンライズ部会長、所有の水田で行われました。多くの関係者が見守る中、刈り取り作業には齋藤さん自らと奉仕者の女性があり、4か月間丹精込めて栽培した稲（つがるロマン）がひと株ずつ丁寧に刈り取られていました。

また、10月9日（日）には、亀田新田子ふれあいセンターで献穀米の準備作業が行われ、地元の子どもたち（亀田子ども会）が、昔の脱穀機を使つての脱穀と、ピンセットを使つての変形米の選別作業を体験しました。終了後は、子どもたちに新米のおにぎりが振舞われ、献穀米の収穫を祝いました。

・コメを選別する児童（献穀米準備作業）



・脱穀したコメを昔の機械でもみ殻を外す（献穀米準備作業）



・父母らも負けじと稲刈り作業（梅沢小学校）

